

設置の背景・概要 等

現代社会は、ストレス社会とも言われ多くの人々がストレスを抱えている。中でも我々を取り巻く居住環境(温熱、音、光、空気質など)は、さまざまな形で精神的・生体的ストレスの原因となり健康状態や作業効率、美容、睡眠の質など多くの側面で我々の生活に多くの悪影響を与えることが知られている。環境ストレスへの対応力が低下した高齢者、睡眠の質や美容状態に敏感な女性、心理的・肉体的状態がパフォーマンスに大きく影響されるスポーツ選手などだけでなく、多くの人々にとってストレスの軽減は非常に重要であり、それは大きな社会的課題のひとつである。

建築環境工学の分野では、快適性の主観的評価や知的生産性の観点から温熱を主体とした居住環境とストレスの関係に着目した研究は数多くなされている。また近年、居住環境が体温(皮膚温、核心温)や血流量、血圧、フリッカー値、心拍変動などの生理的指標に与える影響についての研究もなされてきている。しかしながら、居住環境からの刺激が自律神経系などに作用するメカニズムなどに踏み込んだ研究は少なく、医学・生理学的観点（環境要素受容器、自律神経、ホルモンバランスなど）および工学・建築学的観点（居住環境制御・運用のハード、ソフトなど）から、総合的かつ体系的に、分野を横断した研究がなされることが強く求められている。

本研究講座では、（１）居住環境がストレスに与える影響について、医学・生理学、ならびに工学・建築学の両面から総合的に研究し、ストレス軽減に必要な居住環境的条件とその生理学的メカニズムを明らかにすること、（２）その成果を踏まえた最適な居住環境を提案し、それらがストレス軽減社会の実現に資することを目的とする。

また、建築環境工学の研究において、医学・生理学的アプローチは重要であるにもかかわらず、この分野でのこのような要求に資する知見を持った研究者は少ないため、人が居住する空間を構成することを目的とする建築工学の分野全般において温熱環境分野に限定せず、医学・生理学的知見を有する研究者を育成することも目的とする。

区分	番号	学位論文	全著者名、論文名、掲載誌名、掲載年；巻（号）：ページ番号	国際共同
英文原著	1		Naoko Negishi, Takehito Sato, Yumi Yamashita-Kanemaru, Kazuko Shibuya, Koichiro Uchida, Yoshie Kametani, Hideo Yagita, Jiro Kitaura, Ko Okumura and Sonoko Habu. CD155-Transducing Signaling through TIGIT Plays an Important Role in Transmission of Tolerant State and Suppression Capacity. ImmunoHorizons 2018, 2 (10): 338-348	
区分	番号		発表者名、発表タイトル（題目・演題・課題等）、学会名、場所、発表年月日等	国際共同
国内学会発表	1		根岸尚子 CD155-transducing signaling through TIGIT plays an important role in transmission of tolerant state and suppression capacity. 第33回自己免疫研究会 新宿 2018年7月21日	

国内学会発表	2	滝澤 勇輝、山川 博彰、山口 琢児、胡 愛玲、小林 弘幸、「エアコンの冷風刺激が自律神経機能・ストレスマーカー・気分に与える影響に関する検証」、日本ストレス学会、名古屋（名城大学）、2018年10月27日	
国内学会発表	3	Naoko Negishi CD155-transducing signaling through TIGIT plays an important role in transmission of tolerant state and suppression capacity. 第47回日本免疫学会学術集会 福岡国際会議場 2018年12月12日（水）	